

○9番（加藤康太郎君）

最後になりますが、高齢者の介護が社会全体で支え合う仕組みということで介護保険制度ができたように、今、子供も社会全体で支える仕組みが必要と思います。子育て世代だけでなく、全ての人の恩恵につながる未来の投資であることを訴えて、一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、加藤議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。

再開を4時15分といたします。

〈午後4時08分 休憩〉

〈午後4時15分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。〔17番 古畑浩一君登壇〕

○17番（古畑浩一君）

皆さん、お疲れさまでございます。一般質問15番目、本日5人目ということで、皆さん大変お疲れさまでございましょう。私も少し待ちくたびれました。しかしながら、もう少しお付き合いのほうよろしく願いをいたしたいと思います。

それでは一般質問を行います。

1、市長5期目・後半を迎え、どのように市政を運営し課題を克服していくのか。存続危機が叫ばれる糸魚川市。市長自身の集大成とは一体何か、お聞きいたします。

米田市長5期目のスタートは、官製談合の陳謝により始まり、市長選挙における副市長の公職選挙法違反疑惑、はびねすプールの失格業者への発注、木浦地区公民館の不可解な予備費充当、議会への事後承認など、これまでも3回の問責決議、8度の減給。不祥事による相次ぐ市職員の引責辞職など、俗に「トカゲの尻尾切り」とやゆされ、市民に対して信頼を大きく損なうとともに行政業務を停滞させる緊急事態などを招き、陳謝と再発の防止を繰り返してきております。

今後も、官製談合の防止、物価高による市民生活の救済。深刻な少子化・高齢化への対応。産科の閉鎖などをはじめ医師不足などの医療不安、定着できない若者、職と給料の問題、論議を呼ぶ（仮称）駅北子育て支援複合施設など、積年の課題と新たな問題にどう取り組んでいくのか。

「医・職・住」の充実へプロジェクトチームも立ち上げていただきましたが、これらの問題にどう対処していくのか。パブリックコメントなど市民の声、意見をどうお聴きしていくのかお聞かせください。

また、大糸線の存続問題や後回しにされる駅周辺整備事業や高規格道路・東バイパスなどの交通体系、限界集落から消滅集落へと広がる深刻な過疎問題。インフラ整備も含め、都市計画をどう進めていくのか。今任期を自身の集大成と位置づける市長のお考えをお聞かせください。

以上で、1回目を終了いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

新型コロナウイルス感染症や物価高騰の影響、産婦人科を含む地域医療対策など、山積する課題につきましては、解決に向けて、これまでと同様、最善を尽くしてまいります。

最重要課題である人口減少対策につきましては、全国的な課題とはいえ、決して諦めることなく、引き続き様々な対策を講じるとともに、市内においてはプロジェクトチームを設置し、全庁を挙げて取り組んでまいります。

そして、誰もが住み慣れた地域でいつまでも住み続けられるよう、人口減少対策と、住み続けたくなるまちづくりに対応した総合計画を推進し、持続可能なまちづくりを進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

それでは、これより2回目の質問に入らせていただきます。

市長、前期2年が終わって、選挙のときにいろいろ公約されましたよね。昨日も質問が出ましたが、看護師の養成学校や公営塾など、選挙の公約として上げていたことの進捗よく状態、これからどう取り組んでいくのか。

また、もう2年経過してしますので、どのぐらい進んでいるのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

看護学校や訓練校につきましては、今情報収集をさせていただいて、いろいろと研究調査をさせていただいておる状況であります。

ただ、先ほど前半のほうの一般質問でもお答えさせていただいたように、厳しい環境であることは間違いのないと思っております。

しかしながら、糸魚川市にとって、やはり必要と思われるわけがございますので、それに対して、この可能性についてしっかり取り組んでまいりたいと思っております。

そして、それに向けては今、アドバイザーといいたまいますか、コーディネーターを設置させていただき中に取り組んでおるわけでごさいます、その進展の中でどう対応していくかというのを考えていきたいと思っております。まずは、子供たちの目標、そして子供たちの、その考えているところをまとめた中で、それに対して対応できるものにしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

昨日の一般質問、渡辺議員のやっぱり言葉をお借りすればですよ、やはり市長の公約というのはね、我々市会議員の公約とはもう全然意味が違います。俗にやっぱりマニフェストと言われます。ましてや、もう4期、5期の大ベテランの市長がつくると言ったらやっぱりやらないと。看護学校につきましてはね、よくこんな厳しい条件の中で公約に上げてくるんだと私も思っていました。はなから無理なもん上げたんじゃないでしょ。それはやっぱり、ベテランの大市長としてね、やはり私ならこうするってとこをやはり見せていただきたい。やはり市民の期待を裏切ってはいけないと思っておりますよ。その辺はしっかりとやってくださいね。これ以上突っ込みませんがね、お願いします。

またもう一つ、今回の任期の大課題ということで、過去の経験からも入札問題、もちろん談合問題、いろいろありました。官製談合にまで及びました。この入札の管理体制をどのように変えていったのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えさせていただきます。

官製談合につきましては、大変申し訳ない事件だったと思っております。

また、議会の皆様からは、コンプライアンスの調査特別委員会ということで特別委員会でいろいろご意見・議論をいただいたと思っております。またその中で、第三者委員会ということで、外部の方の意見をお聞きしまして、入札制度につきまして、いろんな意見を頂きまして、改正のほうをさせていただいております。中でもやはり大きいのは、入札監視委員会、こちらを設置させていただきましたし、あと指名停止等の期間につきましてもご意見を頂きまして、見直しのほうを進めてまいっております。

あと細かいところにはちょこちょこあるんですけども、大きな点でいいますと、そこになるかと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

ほかにも細かいところはちょこちょこあるって、やはり緊張感がそういうところをやっぱり足り

ないと思います。言い方とってもかわいくて、けども今伝えるべきはやはり緊張感ですね。

この件にもおきまして、昨日の田中議員の質問の中で、避難者住宅の県単価漏えいは、いろいろとるやり取りがありましたよね。これはさ、はっきり言って入札の、要するに行政の怠慢と言えるんじゃないですか。本当はしっかりやっけていなくちゃいけないこと。これ五十嵐課長が必死に答えてらっしゃいましたけど、やっぱり悪いところは悪いとしっかり認めてましたよね。その辺につきまして、やはりそっちの入札管理のほうの立場としてはどのように捉えてるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

お答えします。

確かに入札をする以前のことになりますので、設計図書のをしっかり作るというところの段階になろうかと思えます。そこでしっかりその単価の管理、そのルールの確認、協定の周知、そういったところが足りなかったというふうに思っておりますので、そこは議員の皆さんからもご指摘をいただいたところでありますので、いま一度、真摯にその辺の徹底をさせていただきたいというふうに考えており、いや、実際にそこはもう協定違反ということで述べさせていただきましたので、徹底をさせていただいてるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

田中議員は、昨日だけではなくて、その前の予算委員会でも何でも、やはりこういう事例については疑わしいんじゃないでしょうか、県単価がなぜ漏れてきてるんだということに関しまして、行政調べませんでしたよね。けども田中議員さんは、県庁まで行って、それを全部突き合わせて、何時間もかけて、やっぱりそうだよって。田中議員さんに言わせれば、ほかにもあるんじゃないかと言ってます。こういうことに関しまして徹底的に調べましたか。大丈夫ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

昨日の田中議員のご質問に関しては、答弁のとおり、また私どもが県に出向いて、調べて、またご報告をさせていただきます。

ただ、前回の頂いたときに、見て、県単価との関連はない、この紙からは見つけられなかったという、そこで作業を止めてしまって、議員おっしゃるように、じゃあその先に県に調べに行くという、その残りの部分を残した。これは、それが市から漏れたか漏れないか業者がどうやって仕入れたかということがいかんと、そっちのほうに私たちは傾注しとったので、その残した道についてやり切る、突き詰めてやるという部分の今、案件が案件ですので、そういう部分は、こういう事態をちゃ

んときっちり今回もやることで、次にちゃんとつなげていきたいと思います。ありがとうございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

1つの癒着の構造、これはやっぱりこうしたことが割と長年も続いていた。時効があるから、さらに昔にまでは遡って調べることができない。だけど、それをやるのが県単価と書いてあって出してるということは、それは悪いことという疑惑というか疑問もなかったということですね。要するに悪いことをしたという意識がないまま、管理体制というのは、ずさんではなかったのかと。業者における談合、そして官製談合もそう、このぐらいは軽く考えることで情報を漏えいしてしまってるのではないのでしょうか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

確かに県単価も含めてであります。そのやっぱりルールというものを長年どうしても慣習とかでやっぱり確認をしていなかった。やっぱりそこは私たちは反省すべきだというふうに思います。なので、もう一度原点に戻って、このルールというのはどこで決まったのか、どういうルールがあるかというところをもう一回調べるところが今大切だと思います。もう先輩からこう言われてきたんだ、そういった慣例で動いているんだと。それをなぜという、どこで、どこの法律で、どこの規則で、やっぱりそこら辺をやっぱり確認するというのが、いま一度私どもの、行政執行する人間の立ち止まらなければいけないというところだと思います。

そういった意味では、管理監督する職員というのも、やっぱり逆にこの規則は、担当者がどこで決まってるんだ。どこの条文だ。そういったところのチェックというのを常日頃からやらなきゃいけないっていうのが、今回分かったようなところあります。そういったところを全庁的には徹底をさせていかなきゃならないというのが私は教訓だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

机をひっくり返してね、やはり大掃除すべきですよ。やっぱり昔ながらの中で生じたひずみなんだから、そこはやっぱりきれいに汚れを取ってやって、何だろう、いろいろと行政課題に臨むべきだと思う。五十嵐課長さんとかね、やっぱりかわいそうだと思うよ。あなたやったわけでもないし、その書類を作ったわけでもない。だけど一生懸命汗をかいて、脂汗をかいて答えなくちゃいけない。新潟県庁まで行って、謝ってこなくちゃいけない。帰ってきたら、また怒られる。やっぱり、その悪しき習慣というのがね、皆さんには悪いけど、皆さんの代で1回クリアにしないと、また次の後輩たちが同じ目に遭うんですよ。また新たの出てきてどうなんだって、もう前任者おりませんと言

ったって、もう無理でしょう。いい加減、トカゲの尻尾切りは通用しませんよってこった。

さて、これからやるって、これからちゃんとやりますんで、厳しくやりますんでという、その言葉を信じましょう。

もう一つは、過去の話ですよ。今、田中議員さんが指摘されたのは、過去にやっていたことの責任はどうなんだと言ってる。このメンバーを見ても、その当時いた職員でいないでしょう、そのときいた職員います、いませんね。そのときいたと言えば、市長、あなたですよ。どう責任を取るんですか。完全なる監督不行き届きじゃないですか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり事実確認をさせていただいて、分かったものについては対応させてもらってまいりました。そして、この分かる範囲の中で、私はその管理責任として、責任を取らせてもらったと思っておりますし、そして、その責任の一つとしては、やはりしっかりとそういったことのないように、この体制をしっかりと整えたと捉えております。それが責任と捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

私の言う責任とは処分です。甘い管理体制だとか入札に対する談合気質みたいな、米田市長になってから特にそれがひどいじゃないですか。それをやったことに対して自分も責任を取って、そこまでは断ち切るから、新しい時代はみんなで厳しくやっていこうねと。当たり前ですけど、当たり前前やっていこうねと、やる姿勢を見せることが大事じゃないですか。辞めろとは言いません。やはり減棒だとか何だとかって、何だか目に見える形、納得できる形で自ら処分すべきじゃないですか。責任を取るというのは、そういうことじゃないでしょうか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私はしっかりとそれをやってきたと、責任を取ってきたと思っておりますので、そのようなことは二度と起こさないような体制をつくってまいりました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

再発防止と陳謝というのはやってきました。

しかし、自らの責任を取っての処分はございません。そこはやっぱり処分というものと責任というものを分けて、しっかりと考えて、これはやっぱり田中さんもあれでお済みになるとは思いませんのでね、当然、早いところ、自らの責任を認めたほうが私はいいと思いますよ。

でだ、最近あったことという、木浦公民館の解体工事における様々な予備費だね。この解体工事における積算というのはどうやってやったもんなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

記憶違いでなければ、私どもの技術担当が現地を見て、確認をして、必要な見積り等を徴収して、積算した。業務委託じゃなかったと思ってるんですが、これはちょっと回答として保留をさせていただきます、大事なことです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

やっぱりとても大事なことだと思うんです。この積算根拠をどうやってやってくるのか、これはもうこれからの時期、ほかの事業にも言えるんですよ。特にこの今話題になってる、なんと15億円もかかるあの施設。軽い気持ちで15億と言ってるわけじゃないでしょうが、一体何に15億円かかるのか、後ほど聞きますね。

さて、それは調べてくださいね。

次、入札問題とありますね。木浦公民館の入札、その結果はどうなりましたか、教えてください。業者名は言わなくていいですよ、A社、B社、C社で結構。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山本生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 山本喜八郎君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（山本喜八郎君）

お答えいたします。

入札には3者の応札がありまして、落札した業者につきましては、税抜きで620万、第1の業者さんです。第2が682万、それから第3の業者さんにつきましては1,110万円という結果でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

これはね、ちょっともう一回さ、聞きますよ。このさっき今、積算根拠を調べてもらってるけど、

その積算根拠で予算をつけていくわけでしょ。この予備費がその後520万か、580万ついでる。こういうのは、ありますか。最初の事業費とほぼ同額の予備費というのは、ありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

積算根拠といいますか、最初の当初予算のつけ方につきましては、見込みという形で、事業のほうを、事業費をはじきまして予算づけをさせていただきます。

ただ、今回の木浦の場合は、事業を進める上で状況が変わった。アスベストの関係だったんですけども、状況が変わって額が増えたという結果になっております。それに対して予算の措置ということで、時間的な余裕がないという判断の下、予備費のほうを充当したという形になっております。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

先ほどは申し訳ございませんでした。解体工事に関しましては、私どもの技師の直営作業で発注図書のほうを作成しております。アスベストの部分が見込みが甘かったということは、その中ではあると思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

A社、B社で、結局、予備費を入れて今回落としたのがA社620万円ですね。予備費入れて、幾らになったんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山本生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 山本喜八郎君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（山本喜八郎君）

お答えいたします。

1,181万5,100円でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

1回目で落選した業者が、1,110万円で失格になってるんですね。でもその業者がお話を聞いたら、ちゃんとした設計ソフトがあって、そこに入れて幾らぐらいかかる。アスベストはレベル3だとか何とかと言ってましたけど、そこもちゃんと行政から連絡があったんで、そのアスベストが入ってる。除去しなくちゃいけない。その金額を普通に計算したら1,300万円以上だと。だけど入札なんで少し落として1,100万円で応札しましたよと。これさ、A社さん、今回落札したAさんは、最初からアスベストを抜いて計算してきたんじゃないですか。この数字になるのはあり得ないと言ってるんですよ。

さらに、予備費も充当することを先に、口車合わせたんでしょ。じゃないと壊せないからね。これ知らなかったことにして、剥ぐったらさ、分かったことにしようって、やったんじゃないですか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山本生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 山本喜八郎君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（山本喜八郎君）

お答えいたします。

屋根のアスベストの関係だと思います。それにつきましては、入札のときに3者同じ内容で出しているものですから、皆同じような条件で入札していただいたものと思っております。

それから屋根については、落札した業者なんですけど、何年か前に耐震工事をやったときに違う業者さんが、そのところも構っていたので、そのところにはないものということで工事を進めたということで、いずれにいたしましても見込みが甘かったと。事前の調査、やっぱりしっかりやるべきだったということでございます。その辺につきまして、私どものほうも大変反省すべき点だというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

ちょっとお聞きしたいんですけどね、その後、国のいろんな補助を使いたいのでということで、議会のほうに初めてこの議案が出てきましたよね、追加予算、予備費。国からの補助金というのは、当初予算、一番最初の事業費の中には乗ってなかったんですか。その補助金を使う予定じゃなかったんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

補助金、国の補助金ではなく、起債を借りるということで対応させていただいております。今回事業費が追加になりましたので、起債を借りるには起債の補正が必要であるということで、事業費も併せて補正をさせていただきました。起債の増額について、第2表、第3表の中の起債のほうの補正という形で、そのときは提案をさせていただいたものになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

それでは、入札結果で一括で補助金を出したわけじゃなくて、最初から起債は充当してあったということだね。合計金額出てから起債を使うというんなら、もう完全に出来レースだよ。増額なら、やっぱりそれを増やさなきゃできないよねと思うけど。最初、起債を見込んでないで入札やって、後になって何だ追加予算を、予備費を入れてから、これ起債充当できるからやりましょうっていうんだ、そこで初めて起債を使ったとしたら、問題だよ。予備費充当されるまで、要するに最初は起債を使えば少ないよね。その後アスベストの関係性で、それは倍になってくる。これに起債をやったほうが、起債は倍もらえるんだ。

でも、今ほど山口課長が言われたように、起債は最初から充当してあった。だけど予算が膨れたので、この起債の増加分を今回補正予算にかけてきた。どっちなんですか、本当は。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

当初に起債は盛ってありました。ありました。議員が言うのは、補助金ではなくて起債になります。当初は盛ってありました。それで、出るほうがアスベストの関係で膨らみますので、600万とか500万、膨らむもんだから、入るほうの財源もそれに合わせて起債を同じ分だけ補正をかける。当初があったものに、歳入も上乘せする。出るほうも上乘せする。そういう補正をかけておりますので、当初から起債というのはございました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

当初から起債があったっていうんなら、後でもう一回確認しておけばいい。これはどうせ、また決算でやりゃあ。委員会でもやるし、全然納得してないんだ、私。これ、そうであるならばさ、合計1,100万で出てきた第3番手、失格になった業者さんかわいそうでしょ。ぴったり賞じゃないですか。これはあれですか、競争妨害になってきますよ。正当な競争を妨害した。というか先ほど言った積算の見積りが甘かったんじゃないかというところに行く。だって普通に計算したらその金額になりますよと言ってるのを、あんたどういう計算したんだって話だよ。

出ました、積算の根拠は。私はそっちの技術者じゃないからよく分かりませんが、言うには、技術者がちゃんと、何だそれなりのアプリを使って計算すると、そういう金額になるんだそうで。古

畑さん別に珍しい話じゃないですよということです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

アスベストの建物のどこに含まれているかというところを設計段階で読み間違えて、実際剥ぐってみたら、もっと想定してないところにアスベストがたくさん出てきて、その処分費にコストを要したというようなストーリーの、ストーリーというか、そういう流れです。なかったことにしてとか、そこまで知恵が回る職員でもないですし、通常に入っておるところに、なんか通常は入っていないようなところにもあったということで、それを処分費をちゃんと積み上げたら、あのような結果になってしまったということで、それ以降はアスベストの調査というものもしっかり外注をして、こういう発注とその後の実施に開きがないようにというような対応を、その反省を機に進めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

今回初めてだったら私もこんなしつこく言わない。

ただ、今回入札したA社というのは、B&Gプールの大規模改修やったとき、あのときも屋根剥ぐったら、さびがひどくてと言って追加予算取ったんだよね。そのときも議会の中で大分問題になった。それは前もって分かんなかったのかということだった。今回のアスベストと同じです。どうもやり方が似てらっしゃるなどかって、引っかかっているんですね。

したがって、ちょっと割と引っかかるとしつこい性格なんで、おいおいこれから調べていきます。多分、今日一般質問やるといろんな情報入ってくると思いますけどね。

それでは、次、行きます。

プロジェクトチーム、人口問題行きますよ。プロジェクトチームは具体的にどうやって活動するのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

組織といたしましては、人口減少対策プロジェクト推進体制ということで、推進本部長を副市長とする推進本部を立ち上げておりまして、その下に人口減少・少子化対策プロジェクトチームという形で総務部長、教育次長をトップとしまして、私ども企画定住課のほうで事務局を取らせていただいて、体制としては進めていきたいと思っております。

重点推進項目ということで、若年層を中心とした人材確保といったところを定めまして、それに向けて情報収集、分析をしながらどのような取組を考えるべきかといった、まず方向性を考えていながらプロジェクトチーム、もしくは担当課と意見交換もしながら事業再編、それから統合、それから新設といった庁内での人口減少、少子化対策の旗振り、推進役として、企画定住課としては取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（松尾徹郎君）

質問の途中ですが、あらかじめお諮りいたします。

このままですと質問時間が午後5時を過ぎることが予想されますので、本日の会議時間を延長したいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

ご異議なしと認めます。

よって、本日の会議時間を延長することに決しました。

古畑議員、どうぞ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

最初からやります。

人口減少、少子化などはどう捉えているんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

昨年の10月の1日で4万人を切ったといったところが非常に大きくクローズアップされておりますが、人口ビジョンの中でも令和7年には3万7,000人まで減るといった見込みもございます。人口減少問題、当市にとって最大の課題といったのは、市長1回目の答弁でもお答えをさせていただいたとおりにかと思っております。全ての事業が人口減少につながっていくといったことから、誰もが住み続けられる、住み続けたいくなるまちづくりを進めておりますけれども、結果的に人口が減ってきているといった実情かと思っております。

そういった中では、大きくは第3次総合計画の着実な実行、人口減少への対応、様々な施策で引き続き取り組みながら、また議員ご指摘が今ほどあったプロジェクトチームといったところも活用しながら、またこれまでの事業も見直しをしながら、何とか成果が出るように取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

そこでね、いろいろ調べてくれたり調査をしてると思うんで、これやっぱりここでちょっと久々に人口白書、やっぱりそれを絶対作るべきじゃないですか。大分変わってきたでしょ。総合計画の将来人口の推移から見込みも大分変わってきてるはず。毎年500人程度だったのが今800人減ってるでしょ、人口だって。出生率も婚姻率も地元定着率も変わってきてるはずだ。それらをちゃんとまとめて一つにすること、それから県と、それから国も異次元の少子化対策やってきてるからいろんな制度出てきてるよね。それを基になるデータみたいにして、そろえてやっぱり白書を作るべきだと思うが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、やっぱり人口の総合計画をつくったのは、令和3年だったと思います。令和2年、2020年、国勢調査が行われております。それで、その国勢調査を基にした将来推計というのが、もうじき発表になるのかなというふうに思います。そこの将来推計が出てきますと、よりもうちょっと糸魚川市の自治体としての部分も出てまいりますので、より踏み込んだ推計値、前回との比較もできますので、そういったビジョンという形での見通しというのは、つくっていかなきゃいけないというふうに考えております。それと今、国のほうでも6月、今月骨太の方針で示されましたように、いろんな児童手当の拡充ですとか施策が出てくると思うんです。それとあと新潟県の取組もちょっと出てきておりますので、それと市、そこをやっぱり3つ並べる中で、やっぱり各年代層にどういうふうに、例えばゼロから18というふうくくりじゃなくて、もっと短く、本当にゼロから3歳、5歳から就学前とか小学生、中学生、高校、二十歳ぐらい。そこを各年齢層にどういう支援が当たっていくのか、そこら辺を国の状況を見ながら、県も取組を見ながら、ちょっとそういう分かりやすいものをつくっていかなきゃいけないなと思います。そのためにも前段でちょっと振り返りをやりますけども、次年度に向けて、そういった取組をさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

すばらしい答弁ですね。それでいいと思います。ぜひつくってほしい。というよりも、もうつくって持ってきなさいよ、何月に誕生したんだ、このプロジェクトチームは。あのね、渡辺部長の意気込みはよしなんだよ。言ったらやんなさいって、本当に。私だっていつまでも笑ってないですよ。そこはやっぱり厳しくいきましようよ。そのプロジェクトチームは、先ほど加藤さんか、渡辺さんか、昨日言ってたわけ。プロジェクトチームというのは、緊急対策じゃないのか。私もそう思うよ。それからさあ、人口対策本部でしょう。これがプロジェクトチームでしょう。偉い人が集まり過ぎだよ。部長さんたちだとか課長さんだとか、庁内でさ、やっぱりこれからの糸魚川を担っていかなくちゃいけない若手職員の中で、やる気のある人を選抜させて、その方で、お前らどうだ、ちょっと糸魚川市何とかしてほしい。研究してくれんかと。出てきたものを、よし分かった。責任持っ

てやろうというのが、一つの形じゃない。偉い人は忙しい人だから、頭突き合わせたって、いいアイデアは私は出ないと思いますよ。その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

おっしゃるとおりのところがあると思います。正直、私も、よわい半ばを超えまして、大分頭が固くなってきてるなという感じがございます。

ただ、先ほどもちょっとプロジェクトチームの取組の仕方というところで、情報を収集して分析をしていく。それで方向性を定めて、具体的にどうしていくほうがいいのかというところを考える。そういったときには、ある程度の経験年数であったり、大局を見た中での取組というのも必要でないかなというふうには考えております。

そういった中で、企画定住課としても、実施計画ですとか総合計画の担当部署として、様々な政策で各課と連携、対応させていただいておりますので、まずは各課とも綿密な協議をさせていただきながら、その上で部長なりの意見を聞いて、プロジェクトチームとしてどういう方向に定めていくべきかとか、そういった協議を進めていきたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

では、私のほうからも。私もかなりちょっと歳が上なので頭の固いほうかもしれませんが、もうちょっとやっぱり若年層、若い人、今、課長、部長というレベルというのは、どうしても総合的なところしか見れてございませんので、やっぱり一番基礎となるのは、係というところになるんですね。最小の単位です、最初の組織。そこの中のやっぱり係員というのがあります。そこになるとやっぱり年齢がぐんと下がってきます。いろんなやっぱり情報も知っておりますし、議員によく横文字だとまた言われますけども、デジタルの技術とか、そういったところも非常に知識があると思います。そういったところとも意見を交換しながら、取組を進めなきゃいけないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

プロジェクトチームの中のプロジェクトチームをつくりなさい。それからね、今回いろいろと少子化対策、定住化対策として、新たに何を考えてきましたか、メニューとして。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

まず、人口減少対策というのが、一口でいいますと、なかなか表現が難しいと思います。個々にはいろんなところがあって、人口減少人口減少と、こう言うと思うんですね。私たちが今プロジェクトで捉えているのは、人口減少というのは、まず人材が不足するというのが一番だと思います。若年層はどこへ行っても人手不足。人手を確保する。

それともう一つ私の捉え方とすれば、この空間も糸魚川市という広大な面積、市域が大きいという、どなたかの一般質問で答えていましたけども、地域が広いので、やっぱりその空間を管理するところが大変になってくると思います。

それとあと、インフラの問題という形がついてきますが、その3つの三次元で私は捉えてて、今回はどうしてもやっぱり若年層といいますか、人ですね。そこにもう一度、Uターンも含めた少子化を含めた、そういった若年層のところにターゲットを捉えたほうがいいんじゃないかということで、これから出てくる政策とか施策を見ながら、そこにターゲットを当てて、皆さんとちょっと協力をしていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

人口問題というのは、何も少子化だけじゃないですからね。いろんなことを含めて、私は「イトヨプラン」を提案して、皆さんは循環型プランという格好の中で、それぞれが干渉し合って、相乗効果の中で増やしていく。それだと弱いとかって、さっきなんか議員さんに1回言ってましたけど。そこだけじゃないんだ。全部が、何なんだろう、絡み合っていて、一つのタイヤのように回ることが大事だ。1つだけよくして若者が増えたとしても、それが都会に出ていったり何だりして、帰ってこなくなったら意味がないんだからね。やっぱり産めば、やっぱり今度は歩け、歩けば今度は地元に残れという運動をやっぱりやっていかなくちゃいけない。残って何がいいのかって、死ぬまで幸せだよという国づくり、まちづくりをしていかないと難しいということだね。

さて、そこでちょっと聞きたいんですけどね、今回、結婚応援金制度をつくりましたよね。ちょっとその内容を教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

今回の6月市議会定例会の中で、補正予算といったことで計上させていただいております。新生活支援事業補助ということで、結婚に伴う新生活を支援するために、新婚世帯の住居取得費ですとか賃借費用、それから引っ越し費用を補助するといった経済支援について、市として取り組んでまいりたいといったもので考えているものでございます。

以上です。

すいません、昨年11月ですか、福井県のあわら市ですとか、石川県能美市とか視察させていただいて、特に福井県のほうで事例として挙げていただいております結婚に対する支援といったものについて、市として取り組んでいきたいというものでございまして、あのときは福井県のほう

でも、福井県の市町村に声かけをして取り組んでいったと。今回、新潟県のほうでも、そのような取組を4月からスタートしているといったことで、財源としてはそういったところも活用していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

早速効果があったって、もうこちらも提言したしね。

これたださ、年齢区分ついてないか。何歳以下とか何歳以上とか、何でそんなつけた。そこをちょっと説明してください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

年齢区分といたしましては、39歳以下ということになっております。39歳以下ですと補助上限が30万円。29歳以下になりますと補助上限が60万円まで上がるといったふうにはなっております。

理由のほうなんですけども、先ほど少し県のほうでもというお話をしました。あと、県と国のほうでの財源措置を頂けるものでして、そちらのもともとのスキームの中でそういった年齢制限のあるといった形になっております。あくまでも、最初に申しあげました結婚に伴う新生活の経済的支援だということで、そういった年齢制限が設けられているものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

この年齢区分は、国のものに従ったってことだよな。だけどこれ聞いたら、もう一気に女性を敵に回すぞ、これ。もう40以上は女じゃないという感じの制度になってるよ。何で若い子と私と差はついてるのって来るぞ、これ。転ばぬ先のつえだから、この条件は見直したほうがいい。危ない、出すな、これは。危ないよと思いますよね、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

今回初めて取り組むというところもありますが、まずはやってみて、こういったのを始める前に議員からもそういうご提言を頂ければ、そういったところも柔軟には考えていかなきゃいけないと思いますが、まずはやってみようという形で、本当は当初予算で出せばよかったんですけども、まずはやってみようというところで上げさせていただきましたので、またやってみての状況という

のは、また市独自の部分というところは、検討していかなきゃいけないというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

せっかくいいことやるんだ。せっかくいいことやるんだから、怒られると面白くないじゃん。何か批判されると面白くないんで、やっぱりやるからには慎重に、これから議案審査入るんだろうけど、そこら辺で一点の曇りないようにやっぱり進めていただきたいと思うんだよ。推進する、応援するから、ごとくね。でも批判して、これどうなんですかと言われると、これやっぱりまずいよって、やっぱり言わざるを得ませんので、先に言っておきます。

それからね、引っ越しの補助金は、なぜ市内限定なの。外から引っ越しもちゃんと出る、出るんですか。ただ、市内在住に限るみたいなん書いてあった。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

引っ越しの費用につきましては、引っ越し業者や運送業者に払った費用ということになります。市内に住居を構えるといったことが条件になってきますので、その際にどちらの業者に払ったかということまでは問うてないものにはなっております。市外から転入してこられた方ということでも、もちろん結構です。お使いになれる制度。

ただ、令和5年の4月1日から令和6年の3月31日までに入籍された世帯といった条件はついております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

これは、私も誤解したから、表記ちょっと気をつけたほうがいいよ。何で市内の引っ越しに限るんだよと、皆思いますからね。東京からこっちに来た人は、逆にその費用を持ってあげたいわけだから、都会からこっちへ、ウエルカムで、糸魚川へ来た人のための引っ越し費用だからね。誤解のないように、表記もやっぱり気をつけたほうがいいっすね。まだ印刷する前なんだろうからね、そこはちゃんと表記を気をつけてください。

それから、空き家の対策というのはどうなってますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

空き家の対策につきましては、空き家の取得改修支援、もうこれはU I ターン者支援ということで取得費の支援、それから改修費の支援といったところを行っております。

また、一般社団法人空き家活用ネットワーク糸魚川さんのほうに登録していただくのを条件に、家財処分の助成だとか、そういったところも行いながら、空き家の利活用が進むように取り組んでいるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

これは空き家対策には、今ほど、もっともっと細かいよね、いろいろあるけど。これでもさ、こないだ一般社団法人空き家活用ネットワーク糸魚川の総会に来いと言うんで、何で呼ばれるんだろうと思いついて行ってみますと、すばらしい活動してんなと思ってたらですよ、これちょっと気をつけないとまずいんじゃないですか。日本の一般社団法人空き家活用ネットワーク糸魚川の制度、これさ、独占禁止法の、はっきり言ってカルテルだろう。一般社団法人空き家活用ネットワーク糸魚川に入っていないと、糸魚川市がつくった様々な制度が適用できないんだぜ。公平性に欠けるところが、これ独占だよ。その一般社団法人空き家活用ネットワーク糸魚川のネットワークに入っていないと、あなた入っていないから補助金あげませんということになるんだよ。これ市長、ゆゆしき問題ですよ。もう何年もたってる。これを裁判に出されたら、絶対負けるね。どうしますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

糸魚川市におけます空き家の利活用といった点について、一般社団法人空き家活用ネットワーク、それから空き家バンクの利用促進を兼ねて、空き家の情報提供といった形で行ってきている、活動を行ってきているものと思っております。

これまでの「いえかつ糸魚川」、すいません、一般社団法人空き家活用ネットワーク糸魚川、「いえかつ糸魚川」ということでちょっと省略させていただきますと、そちらのほうの設立に際しましても、糸魚川市の空き家バンクのもっと利用促進、空き家の利活用を利用促進していきたいといった経緯で、市と商工会議所さんと一緒になって取り組んで設立してきた経過がございます。そういった中で、会員企業さんからもお入りいただいて、取組を進めていただきながら、そういった補助制度などもつくってきたといった経過でございます。

所有者さんが登録をする。所有者さんが、例えば空き家の家財処分についての助成を受けるといった形になっておりますし、空き家の改修事業ですとか取得の補助についても、所有者さんが受けるといったことで補助制度としては、スキームとしてつくっているものになっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

これもう時間がないんでね、今度、総務文教常任委員会でやります。

ただ、言っとくけど、不動産関係というのは面倒くさくて、いろいろな資格だとか、法令的なものとか、不動産売買のための不動産物件何とか法だとかいろいろあるんだそうです。このいえかつネットワークというか、一般社団法人空き家活用ネットワーク糸魚川さんは、誰もそれ持ってないんですって、その資格。だから、法令違反を指摘している業者もいるよ。これちょっとまずいかもしんない。糸魚川市補助金出してるんだろ、50万だっけな。あのおとき来賓で一番上に座ってたけどさ、中村課長、いい気になってると足すくわれるよ。大丈夫なら大丈夫でいいけどさ、でもちゃんとそこは調べておいたほうがいいよ。今度の総務文教常任委員会までちゃんと調べておいていただきたい。

時間がなくなってきたんで、次、行きますね。先に行っちゃいます。

次ね、パブリックコメントですね。パブリックコメント、これ例の子育て支援、あのさあ何か議員さんの話聞いていると、なんか自分の都合もいのように解釈して、1,500万円じゃないわ。15億円や5,000万が数字だけ独り歩きしているとか、またね、過去何年も協議してきた、今さら反対するなみたいな意見もある。けどね、私4年間、その前の市議会議員やってないし。私が15億円の年間5,000万のDBO方式でどうのこうのやりたいとかというのは、議会を通り越して、パブリックコメントの公開資料の中で初めて知ったんだよ。今年、それまでは3億だ、10億だ、12億だと言ってたんだよ。概要も全然できてなかった。それを何年も協議してきたと、私は言わないでほしい。いかがですか。それとも保守には話してあったか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

今回パブリックコメントにかけた計画書の中で、14億8,000万円と5,000万円というのは、初めて出たものでございます。これについては、議会の皆さんにしっかり説明しないままパブリックコメントを出したということについては、本当に大変申し訳なく思っております。今後このようなことのないようにいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

つい先日ね、総務文教常任委員会もありましたけど、この子育て支援センターの内容なんか全然協議してないんですよ、話してない、議長もいらっしゃったから分かったと思うけど。言ってみれば、何だ、この件について審議したのは、ほとんどないんですよ。3月議会の中の常任委員会だけだろうと思うんですけどね。この具体的になってからね。パブリックコメントに載ってから。それなのに今さら、ずっと話し合ってきたみたいなことをおっしゃる議員さんがいるけど、そんなばかなことはない。私にとっては2月からスタートですよ、これ。年数なんか何言ってんだ。補助金が期限があるとかが何とかがって、また補助金の期限のことを言い出したね。これどうするんですか、

補助金の期限。補助金の期限があるから早く決めなくちゃいけないんですか。あれ行政じゃなかったかな。田原洋子議員か。補助金、期限付補助金があるから急がんならんとやったん。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 豊君登壇〕

○教育次長（磯野 豊君）

お答えします。

今までの一般質問の中にも出てきましたように、大火から駅北復興まちづくりという一連のもので動いてきまして、その中で子育て支援を中心にというところで、まちづくり戦略で皆さんの意見を聞いて、まちづくり戦略ができたというところで、予算審査特別委員会のときに、基本計画、駅北子育て支援複合施設の基本計画を私ども、そこでこの計画は、それによるものではない、たたき台としてといったところで、集約がなされました。市といたしましては、この基本計画をたたき台としてということであるので、これを、この基本計画をたたき台として、今後、総務文教常任委員会で検討していただくというふうに思っております。当然、基本計画についても、提示させていただいた基本計画についても、パブリックコメントの取扱いも含めての基本計画ですので、そういった点も含めて、たたき台として、ゼロではなくて、この基本計画をたたき台として、ご審議いただくというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

思い出したよ。質問したのは、ついこないだだね。田原洋子議員の質問の中にそれが出たんだよね。持論として出てきた。

でも今、磯野次長に言われた時点で、補助金の期限に何か左右されるもんじゃないというのは、たしかやったよね。またそれも総務文教常任委員会でやろう。

それから、このパブリックコメント、行政としてはまとめられましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

3月8日の総務文教常任委員会の際に、パブリックコメントの分類ですとかその辺の概要についてご説明をさせていただきました。その中で、73件の意見を頂いたうち、33件が今この先、実施時、もしくは検討課題とするものということで、課題を認識したまま、課題を認識しているよという状態で、この基本計画の修正案をまとめてございます。その中で総務文教常任委員会に諮るべきもの、あと実際の設計を進めないといけないものというようにちゃんと仕分けをして、総務文教常任委員会にお諮りするべきというものを、先ほどの次長の答弁でないですけど、総務文教常任委員会で議論いただくという流れになると思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

これはA、B、Cとランク分けしてあるけどさ、このランク分けはどういう意味ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

皆様からのパブリックコメントを頂いて、ご意見に反映します。これはご意見に反映しません。そういう市としての判断をお示ししたものが、このAからDの記号でございます。今、Cの部分で、その先送りにするやつが、73の半分近くは、まだここでは決めきれていないですよという市の状態をお示ししたものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

このパブリックコメント、これやっぱりすごい数ですし、読むだけでも大変ですよ。これやっぱり市民のちゃんとさ、思いを自分の実名入りで行政のほうへちゃんと送ってきた。本来ならA、B、Cとランクつけるもんじゃないでしょう、この中については。これご意見が書いてある。いいか悪いか書いてあるんじゃないんだよ。ただ、ちゃんと根拠を示して、今回のこの計画につきましては反対です。もしくはこれを造るなら、こうしてほしい、こんなお金があるんだったら保育支援をもっと充実してほしいとか、これ書いてある。これ書いてある方がCとかDなの。そりゃおかしいですよ。都市政策課だけしか読んでないの、これ。全課それぞれ読むもんだと思うけど、どうですか。市長どう思いました、市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

見ました。それ全て見さしてもらいました。

○17番（古畑浩一君）

で、どう思ったかって、聞いている。駄目、時間ないです。どう思ったか聞いたんじゃないですか。

○議長（松尾徹郎君）

読んで、市長がどのように思われたかということです。

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

いろんな意見を頂いておるというのを感じておりますし、いろんな考え方があるというのも理解をさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

あのね、見ましたか。見ましたという答弁、それからいろんな意見があるなと思いましたって、人ごとみたい。これだけ書いてあって、真剣に皆さん書いてあるんですよ。ばかやろう、このやろうなんて、絶対書いてない。反対するにも、反対するなりの理由を入れて、こうやってちゃんと書いてある。それやっぱり市民にちゃんと真摯に耳を傾けるべきじゃないですか。目も見えなくなつたし、耳も聞こえなくなつたんですか。そういう市民の真摯の声を、ほかの議員みたいに付度して、よしよして、さあやってくれって言ってんじゃないんですよ。やるならやるで市民の理解をちゃんと得るべきだと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

パブリックコメントだけが、私に寄せられた意見ではないと思っております。いろんな場面場面、いろんな状況のところで、子育て支援総合センターの複合施設については、ご意見を頂いています。パブリックコメントもその中の一つとして捉えておるわけでありまして、そのような答弁にさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

全然納得できませんが、これも総務文教常任委員会の中でやりましょうね。それから、まだ数が残ってるんですけどね。

五十嵐さん、駅周辺整備計画というのは、一体どうなったんですか。何年もたってるけど、やらないんですか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

議員おっしゃるのは、主に駅北ばっかやって、駅南をとというような趣旨のご発言かと思えます。現状は、今力が入っているのは、大火のこともありまして駅北ということは、誰もが明らかかかと思えます。

ただ、糸魚川市としては、立地適正化計画をぜひ機会があればご覧いただきたいのですが、糸魚川駅を中心として、こういう四角で、このエリアを都市機能を充実していきたいという意思を、大火に若干遅れるんですが、計画として示しています。今まだ駅南のほうに、ああいう優良な未利用地があるんですが、その利活用の検討というところまでになかなか入っていけないところは、ちょっと力不足というところもあるんですけど、そろそろ駅北のほうの計画が動き出せば、今度は都市政策課としては、そちらのほうにシフトしていかなきゃいけないタイミングには、もう来ていると思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

話を変わって、今度は大糸線存続の問題。先ほど来、いろいろ論議もありましたけど、これ例えば上下分離方式となった場合、国、県、沿線自治体の負担というのはどのぐらいになりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

まだそういうような上下分離に向けた議論の前にやるべきことがあるということで、利用促進の取組をしております。全体で年間19年から21だったですか、その3年間の平均で6.3億円毎年赤字が出ている。あと、これを上下分離なのか支援なのか、いろいろな形あるかと思えますけど、どういう形まですれば、JRは存続するかとか、そういう上と下の分けるお話もしてないですし、黒字にしてくれという話なのかとか、そういうお話自体もしてないということですので、全体の赤字が6.3という、その部分でしか動いていない話でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

JRはさ、経済的な、経営的なことしか言ってこない。

ただ、大糸線というのは、関東直結の、いわゆる国策鉄道と言われてもいいんだ。これからの有事の場合、絶対に必要な路線なんだから、今簡単に赤字だから廃線にするというわけにはいかないものであります。さすがにもう時間が来てしまいましたけどね。

市長やっぱりね、全体、木を見て森を見ずと言いますけど、やっぱり全体を見て幾らかかるかと。これからどれぐらいの金額がかかっていくのか、巨額な累積された問題もたくさんあります。1点

豪華主義でさ、1つだけに15億円もかけてる場合じゃないと言ってる。

○議長（松尾徹郎君）

時間が参りました。

○17番（古畑浩一君）

それと、かけるならかけるでちゃんと採算性のある計画を立ててほしい。何回も言うように。時間が来たようなので、やめますけどね。限りある財源ですよ。

終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

これで一般質問を終結いたします。

以上で本日の全日程が終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後5時27分 散会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員